

# 倫理、国家、スペクタクル 「東日本大震災」を契機に

昨年3月11日におきた「東日本大震災」をめぐっては、多くの論客によって「文学に何ができるのか」という、不可思議な問題が提起された。彼らが考えている「文学」とは、せいぜい「本」という「商品」のかたちをとって「書店」におかれているものを指しているにすぎない。

ここでは、むしろ私たちが「現実」だと思い込んでいる世界が、じつは「文学的な想像力」によって構成されたものなのではないか、というアプローチをとることにする。実際、大震災のあと私たちが眼にしているのは、こうした想像力による「世界の書き換え」である。

もちろんここではこうした問題すべてに向きあう余裕はないが、議論のとりかかりとして、倫理、国家、映像といった領域に、どのように文学的な想像力が介入しているのかを確認したいと予定している。

倫理 Q核兵器や原発は、それ自体が「悪」なのか

- ・「世界が存在すること」に驚く？
- ・善悪をめぐる二つのパラダイム
- ・存在と倫理はべつであるーカント
- ・存在と倫理はおなじものであるースピノザ

国家 Q「安全」や「平和」という観念と、どのようにつき合うのか

- ・『永遠平和のために』
- ・目的とその手段という発想
- ・紛争地帯としての「生政治」

スペクタクル Q大震災を経験した人々は「想像力の壁」を突破することができるのか

- ・象徴形式としてのスペクタクル
- ・自己イメージとしてのスペクタクル
- ・デモ＝スペクタクルの贈与
- ・オルタナティヴとしての「アナクロニズム」

結論：あらたなる「冒険小説」をもとめる

日時：6月26日(火) 16:20~17:50  
会場：和泉キャンパス メディア棟M403教室(4階)  
講師：池田雄一氏

文芸評論家、京都造形芸術大学非常勤講師

(単著)『メガクリティック』(文藝春秋)

(単著)『カントの哲学』(河出書房新社)

(共著)『思想としての3.11』(河出書房新社)

コーディネーター：丸川哲史 政治経済学部教授

予約不要：学部生の受講可 学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。  
教養デザイン研究科 TEL:03-5300-1544